<table>
<thead>
<tr>
<th>項目</th>
<th>内容</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>著者</td>
<td>野澤 知弘</td>
</tr>
<tr>
<td>権利</td>
<td>日本貿易振興機構（ジェトロ）アジア経済研究所</td>
</tr>
<tr>
<td>雑誌名</td>
<td>アジア経済</td>
</tr>
<tr>
<td>巻</td>
<td>47</td>
</tr>
<tr>
<td>号</td>
<td>12</td>
</tr>
<tr>
<td>ページ</td>
<td>23-48</td>
</tr>
<tr>
<td>発行年</td>
<td>2006-12</td>
</tr>
<tr>
<td>出版者</td>
<td>日本貿易振興機構アジア経済研究所</td>
</tr>
<tr>
<td>URL</td>
<td><a href="http://hdl.handle.net/2344/00007404">http://hdl.handle.net/2344/00007404</a></td>
</tr>
</tbody>
</table>
カンボジアの華人社会

はじめに

カンボジアの首都プノンペンの大通りを歩くと、中国語表記の看板を掲示した店舗が随所で見受けられる。たとえば、東北洗髪屋（足の裏マッサージ）、広東美髪屋（理容院）といった中国語表記の看板が目についたり、インターネットカフェ（網咖）の店舗入口に中国語表記で「発送点（郵便物取扱）、打字（タイプライターサービス）、打国際長途（国際・長距離電話サービス）」といった案内が掲示されているのも目にしたりする。政府当局は、外国語表記の看板には必ず上方にクメール語を併記し、字体もその他文字の2倍大にするよう一気につき定めており、それを以てクメール文字の尊敬を灌輸している[邢 2003]。しかし実際の見聞では、中国語など外国語文字の表記がクメール語よりも大きくなっているのが現状であり、さらに中国語表記の看板を掲示した店舗も見受けられる。またクメール語併記の位置に関しても、遵守していない店舗が見受けられる。

本稿は、筆者が2006年8月（3週間）と2007年6月（1週間）の2度にわたってプノンペン市内の華人集住区域で実施した現地調査の成果をもとに、セントラルマーケット周辺、シャルルドゴール通り、カンボジア通り、モニポン通り、の5カ所に関して、各区域の華人の集住形態を中心に紹介するものである。〇〇年〇〇〇年にロンノルが軍事クーデターにより政権を掌握すると、政府は華人経営の商店が中国語表記の看板を掲げることを禁止したが[傅・張 2004, 2005, 2006年から始まった対外開放政策による対華人政策の緩和により同法律は廃止されている[傅・張 2006, 2007]。華人集住区域である通り〇〇と〇〇では、中国語表記の看板を掲げていない店舗も多く、これに関しては、華人経営者が当時掲示を義務付けられたクメール語表記の看板をそのまま使用しているからと推察される。したがって筆者は、図中にある〇〇の店舗については大部分が華人経営であると考えて
図1 - カンプチア通り（全長約m ）

- 撮影業
- 自動車部品販売業
- 貿易公司（運輸業含む）
- 果汁屋
- パソコン修理業
- 写真機販売業
- スポーツ用品販売業
- 携帯電話販売業
- パン屋
- カーテン生地販売業
- 食肉販売業
- レンタルビデオ（ダビング業含む）
- 印刷業
- 衣装レンタル業
- 飛行機
- 行政業
- 自動車タイヤ販売業
- 医院
- ネットカフェ
- 理髪店（美容院含む）
- レコード販売業
- 眼鏡販売業
- 喫茶・軽食店

図1 - 通路密な通り（全長約mメートル）

（出所）昭和30年8月と昭和31年3月の2度にわたるフィールドワークによって筆者が作成。
（出所）野澤（　　）を加筆。
いる。参考までに市内概観図（図2）も掲載しておく。
日本をはじめ、シンガポールやマレーシア、タイなどのチャイナタウンや華人集住区域における集住形態については、先行研究によりすでに調査報告がされているが、カンボジア・ブノンベンの華人集住区域における集住形態に関する現況調査報告は、目下のところ皆無である。そのため本稿では図表華人社会の構成員である

新客華僑とは、カンボジアに投資してビジネスを展開している香港、マカオ、台湾、大陸（中国）系投資家のことである。カンボジアでは2001年の新政府による対外開放政策の実施や2004年8月4日に発布された王国投資法の施行にともない、中国大陸をはじめ、香港や台湾などの企業や投資家が同国に投資してビジネス展開させるケースが増加している（野澤2000,2001;柬埔寨華人理事総会=2000,2001)。彼らは、山下（1999）の定義によれば「新移民」に当てはまる。また（莫2000）は、外国での永住権の有無にかかわらず、永住傾向の強い中国人を「新（客）華僑」と呼ぶ。この場合、商務上の暫定居留（長期滞在）も含む。したがって本稿で使用する新客華僑の定義（「華僑の一部を構成する」）は、前出の華生華僑が現地出生、現地国籍保有、現地地蔵が母語の3要素を同時に満たす者（老華僑を除く）であるのと対照関係をなした中国出生、中国国籍保有、中国語が母語の3要素を同時に満たす者（香港・マカオ・台湾出身者を含む）であることとしている。

2. 調査の概要
冒頭でも述べたが、今回現地調査を実施したのは、シーケントラルマーケット周辺、シャルルドゴール通り、カンプチア通り、モニャン通り、モニャン通り、モニャン通り、の計5カ所である。（蔡2000）が華人のもっとも集中する地域としてオルセ通りとシャルルドゴール通りを挙げていること、さらに平野（2000）がモニャン通りは元来華僑・華人が多
現地報告

図3 プノベンの僑生華人社団（宗親総会・同郷会館を中心に）と新客華僑社団

（僑生華人総合）

（複合的組織）

（新客華僑社団）

（出所）野澤（[出所]）を加筆修正。
（注）年月日は当該社団の設立年月日。

く住む商業区域だったと述べているが、当該区域を調査対象として選定した理由である。
ただし、オルセー通りに関しては時間的制約もあり調査を実施しておらず、またカンボジア通
りとセントラルマーケット周辺に関しては、シャルルドゴール通りとモニポン通りにおける調
査過程で、両区域でも華人集住区域が形成されていることを知りえた。そして[出所]、
・[出所]通りに関しては、現地情報として新客華僑が集住区域を形成しているということを
すでに知りていた。区域全体が僑生華人・新客華僑の集住区域である[出所]〜[出所]に関しては全
戸を対象とした調査を、[出所]と[出所]に関しては当該区域内で局的に存在する店舗で地域の
・[出所]に調査対象を限定した地域的調査を実施した。

このような調査対象が定まった後、もとく景観観察という調査方法を用いて、カンボジアにお
ける華人の経済活動の現況把握という観点から、各区域の僑生華人・新客華僑系店舗の経営業
種を主な調査項目として、華僑の経営者を対象とした華僑の経営業コースに着目し
ながら現地調査を実施した（[出所]年8月2〜5、
[出所]〜[出所]日間の計7回終日実施。[出所]年[出所]月は調査の
み）。各区域における集住形態に関しては、筆者自身の景観観察を中心として、その他華
人社団（図3）からのヒアリングおよび現地華
人会社等が刊行した資料、会社等が刊行した資料、加筆した上で判断した。

華人の国内分布現況ならびに華人社会を構成する方言別集団の人口概観

カンボジアには[出所]年8月時点で約[出所]万人
の華人がおり[出所]、総人口の[出所]パーセ
図4 カンボジア行政区

（出所）アジア経済研究所（2020）より作成。

カナビスタの推計人口は2020万人（天川2020）を占める。おもに首都プノンペンおよびバッタンバン、カンダール、コンボート、コンボンチャーム、コンボントム、ブレアヴィア州など（カンボジアの行政区は図4を参照）に分布しているが（広西壮族自治区政府経済版），このうちプノンペン市内に居住する華人がもっとも多い。これに関しては、カンボジア全土における華人総数の約半数程度がプノンペン市内に居住するという意見もある（牧1999; 植・中2003）。カナビスタの華人社会でも現地化（2010年）は着実に進行している。たとえば、今日カナビスタの華人のパーセントがすでにカンボジア国籍を取得している事実（野澤2010, 2011）は、それを示すものといえよう。このような現地化の動きは、20世紀前半の傾注3に中華東南部の沿海地域より渡来した第一世
代（老華僑）の国内残留者が、歳月の経過や戦禍、
海外逃難などによって今日僅少化する一方で、
三世（○○○年代前後に出生した土着華人）への世
代交代が図られつつある[仮・張 すべて]とも密接に連動しているといえよう。
現在、カンボジア本土の正確な華人人口は、現地化の進行
により把握困難というのが実情である。すなわ
ち、先に挙げた約5万人という数字も筆者が
現地各華人団体より聴取した非公式推計という
ことである。またこの約5万人という数字の中には新客華僑（大陸・香港・台湾系）は含ま
れていない。目下カンボジアに居住する新客華僑
は約3万人といわれている[野澤 すべて]。

カンボジアの華人社会は潮州系・広肇系・客家
系・海南系・福建系という5つの方言別集団
に分類される[注3]。そのうち潮州系は同国華人
総数の4パーセントを占めており、彼らはお
もに揭陽・潮陽・普寧・鰓平などの出身である。
以下多い順に、広肇系（主に南海・三水・東莞・
新会・宝安・花県などの出身）、海南系（主に文昌・
舘山・万寧などの出身）、客家系（主に興寧・紫金・
梅県・大埔などの出身）、福建系（主に泉州・同安・
漳州・廈門などの出身）となっている[四川新聞
網 すべて]；華商日報社 すべて；楊 すべて；国務院僑
辦僑務幹部学校 すべて；広西壯族自治区政府網
経済版]。華人の使用言語は、各々の本籍（籍貫）
に基づき概ね潮州語、広東語、海南語、客家語,
閩南語の5つに大別される。カンボジア政府は
フランス植民地からの独立以降、華人の方言別
集団人口センサスはとっておらず、民族別人口
センサスさえもとっていない。そのため現況把
握については、各会館から聴取する非公式推計
に依拠させるを得ないので実情である[野澤
すべて]。表1は、筆者が同国における華人方言

<table>
<thead>
<tr>
<th>集団</th>
<th>人数（人）</th>
<th>全カンボジアに占める割合（%）</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>潮州系</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>広肇系</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>海南系</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>客家系</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>福建系</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>合計</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>

(出所)野澤（すべて）。
(注1) 各同鄉会館の会長ないしは副会長からヒア
リングした内容を概数として整合。

別集団の人口概数（○○○年8月時点）については
各会館からヒアリングした非公式推計を整理し
たものである。カンボジアの華人社会を構成す
る方言別集団の人口を概観する上で、ある程度
の参考になろう。

カンボジア華人の経済活動についての概観

シハヌーク政権執政時期の○○○年から、カンボジ
ア華人の経済状況は比較的良好で、華人系商
業経営者が同国全土における商業経営者の4パ
ーセントを占めていたとされる[張 すべて]
；楊 すべて；国務院僑辦僑務幹部学校 すべて；
○○○年代初め、カンボジア本土には大小2万
軒余りの商工業関連店舗が存在し、その内の
4パーセント以上は華人経営によるものだった
とされ、またブンペン市内の商工業関連店
舗2万軒余りのうち、14パーセントが華人経
営によるものだったとされており[楊 すべて；華
商日報社 すべて]。これら華人系経営者のうち、
約半数は潮州系で抑えられていたとされる[華
現地報告

商日報社

このほか主要都市には、華人系の商工業関連店舗が計45軒あったとされる。当時、商業以外に華人が経営していたおもな工商业関連の店舗には、食品加工業、繊製業、日用品化学工業、金属機械加工業、木材加工業などがあった（"楊 "）。

昭和34年4月に民主カンボジア（ボルボル共産）が誕生して以降、国内では極左的経済政策が採られ、商品価格の強制的な引き下げ、商工業の個人経営禁止、市場や貨幣の廃止が断行された。そのため商工業を主体とした華人経済は甚大な打撃を被り、なかには不動産を没収された株式に逮捕投獄された大企業経営者もいた。また同政権では華人を含む数十万の都市人口を農村に追放して、農業合作社という組織体制下で農耕に従事させた。社構な管理体制と劣悪な環境により、多くの華人が農村で死亡し、海外へ亡命する者もいた。さらに昭和36年に誕生したヘンサムリン政権がベトナムに追随して断行した対華人迫害政策は、華人の海外亡命現象を再燃させ、この時期カンボジアから逃走した華人は推定で数万人とされる（"彦 " "西村"）。

昭和38年以降、カンボジア政府は華人から経済発展の意欲を引き出すために弾力的な経済政策を採り始めようとした。たとえば、華人の商工業分野での個人経営を認めたり、昭和39年には華人企業における株式所有（「二パーセント」）を義務付けた制度を廃止したりした。これにより、華人は大規模商工業の独資経営が可能になったのを同時に、経営不振の国営企業が分権方式で華人に払い下げられるようになった。またこの時期より政府は、海外に亡命した華人に対しても帰国およびビジネス投資・経営を奨励するようになった（"彦 " "肥後"；国務院僑務僑務部学校 ""翔安""）。途絶したようにカンボジアでは昭和40年より对外開放政策が実施されることになったが、これにより以前に政府がすでに対華人政策の見直しを行っていたことがみとめられる。

現在、カンボジアの華人は大半が商工業に従事しており、なかでも商業経営者が多く、同国華人の約1パーセントが第3次産業に従事している。業種別の内訳としては、輸出入貿易業、運輸業、不動産業、旅行業、ホテル業、飲食業、ナイトクラブ経営、スーパーマーケット経営、日用雑貨店経営、理髪業、布地販売業、洋服販売業、時計販売業、家電販売業、オートバイ販売業、薬局経営など多岐に及んでいる（"広西社族自治区政府経済調査"；"楊 "；柬埔寨華人理事総会編 ""カンボジア""；国務院僑務僑務部学校 ""翔安""）。

華商日報社（"翔安"）によると、同国における商業の1パーセントが華人によりコントロールされており、小売商と卸売商を筆頭にして、次位は輸出入貿易業であるとしている。また上記業種の他に、今日カンボジアの華人は金融業にも進出している。加華銀行（"翔安"）と経済銀行（メコン銀行）はどちらも国内では規模の大きな銀行であり、特に加華銀行については、商工業企業に対する資金提供サービスや農村の発展に向けた農民の生産力向上に対する援助において政府の奨賞を得ており、今日すでに国内最大級の銀行になっている（"華商日報社 "；"翔安"）。この他華人が設立したものに安達銀行（"翔安"）があり、近年金融業への進出については、同国華人社会における五大（潮州系・広州系・海南系・客家系・福建系）のなかで潮州系の活躍が顕著となっている。金融業における潮
現地報告

州系の優位については、高橋（高橋）が昭和年代の同国華人社会における五大紡の主催等を述べているが、これはボルボトやロシル政府といった経済発展を促進するため、これまでに約二名の華人実業家に「助爵」という爵位を授与している。これは政府が華人実業家を指名し、国の推進力が発生することになっている。通常この爵位獲得には、最低10万米ドルの寄付金が必要であり、寄付金は国家の最需分野に充てられている（[華商日報社]）。

同国華人社会を代表する楊啓秋（楊啓秋）は、近年の経済発展に対する貢献を表彰するため、これまでに約二名の華人実業家に「助爵」という爵位を授与している（[華商日報社]）。

特に寄贈額は、同国で今日合計の企業家群を当たっている（[華商日報社]）。ちなみに寄贈額は、同国で今日合計の企業家群を当たっている（[華商日報社]）。

戦乱と政治上の流動的変遷に翻弄されてきたカンボジアの華人は、今日、カンボジアの国家再建、経済復興の上に軽視できない重要役割を演じており、経済の急速なグローバル化も合わせて華人が発揮する影響力は日々重要さを増してきている。一部の有力華人実業家は、この戦後の発展を経て、すでに経済的有為な企業集団を形成しており、不動産開発も重要な経営業種のひとつになっている。またプノンペン市内の高級ホテルのなかには華人実業家が出資しているものもある（[華商日報社]）。

カンボジアの長者番付のなかには多くの華人が名を連ねており、実際、政府税収の相当部分は華人系企業により賄われている。そして政府は華人の国家経済発展に対する貢献を表彰するため、これまでに約二名の華人実業家に「助爵」という爵位を授与している。これは政府が華人実業家を指名し、国の推進力が発生することになっており。通常この爵位獲得には、最低10万米ドルの寄付金が必要であり、寄付金は国家の最需分野に充てられている（[華商日報社]）。

同国華人社会を代表する楊啓秋（楊啓秋）は、近年の経済発展に対する貢献を表彰するため、これまでに約二名の華人実業家に「助爵」という爵位を授与している（[華商日報社]）。
表2 カンボジア華人理事総会第3期理事名簿（2001年3月，任期4年）

<table>
<thead>
<tr>
<th>姓名</th>
<th>役職</th>
<th>商号</th>
<th>業種</th>
<th>五大傍</th>
<th>同郷会館役職</th>
<th>備考</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>発啓秋</td>
<td>会長</td>
<td>新穂美貿易有限公司</td>
<td>貿易業</td>
<td>潮州系</td>
<td>潮州会館会長</td>
<td>カンボチア通り</td>
</tr>
<tr>
<td>蔡義華</td>
<td>秘書長</td>
<td>和平進出口公司</td>
<td>貿易業</td>
<td>潮州系</td>
<td>広肇會館長</td>
<td>カンボチア通り</td>
</tr>
<tr>
<td>鄭棉蘭</td>
<td>秘書長</td>
<td>天堂喫煙製造有限公司</td>
<td>たばこ製造業</td>
<td>潮州系</td>
<td>潮州会館副会長</td>
<td>カンボチア通り</td>
</tr>
<tr>
<td>邱怡源</td>
<td>副会長</td>
<td>泰文隆貿易有限公司</td>
<td>貿易業</td>
<td>潮州系</td>
<td>潮州会館副会長</td>
<td>カンボチア通り</td>
</tr>
<tr>
<td>杜瑞通</td>
<td>副会長</td>
<td>万里旅貿有限公司</td>
<td>旅行業</td>
<td>潮州系</td>
<td>潮州会館副会長</td>
<td>カンボチア通り</td>
</tr>
<tr>
<td>楊茂偉</td>
<td>副会長</td>
<td>百楽大酒店</td>
<td>ホテル業</td>
<td>潮州系</td>
<td>潮州会館会長</td>
<td>カンボチア通り</td>
</tr>
<tr>
<td>李金山</td>
<td>副会長</td>
<td>安信鍾表行</td>
<td>時計販売業</td>
<td>潮州系</td>
<td>潮州会館会長</td>
<td>カンボチア通り</td>
</tr>
<tr>
<td>蔡家亮</td>
<td>副会長</td>
<td>東華日報社長</td>
<td>出版</td>
<td>潮州系</td>
<td>潮州会館会長</td>
<td>カンボチア通り</td>
</tr>
<tr>
<td>黄焕明</td>
<td>副会長</td>
<td>慶昌有限公司</td>
<td>自動車輸入販売業</td>
<td>潮州系</td>
<td>潮州会館副会長</td>
<td>毛沢東通り</td>
</tr>
<tr>
<td>林財金</td>
<td>副会長</td>
<td>満意大酒店</td>
<td>ホテル業</td>
<td>福建系</td>
<td>福建会館會長</td>
<td>カンボチア通り</td>
</tr>
<tr>
<td>林國安</td>
<td>副会長</td>
<td>万谷大餐館</td>
<td>飲食業</td>
<td>潮州系</td>
<td>潮州会館顧問</td>
<td>カンボチア通り</td>
</tr>
<tr>
<td>邢贻宝</td>
<td>副会長</td>
<td>英石煙草有限公司</td>
<td>貿易業</td>
<td>潮州系</td>
<td>潮州会館副会長</td>
<td>カンボチア通り</td>
</tr>
<tr>
<td>林文洲</td>
<td>副会長</td>
<td>合興建築有限公司</td>
<td>建築業</td>
<td>潮州系</td>
<td>潮州会館副会長</td>
<td>カンボチア通り</td>
</tr>
<tr>
<td>馮達興</td>
<td>副会長</td>
<td>京都彩色攝影電影公司</td>
<td>撮影業</td>
<td>客家系</td>
<td>客屬会館館長</td>
<td>カンボチア通り</td>
</tr>
<tr>
<td>蒙美連</td>
<td>副会長</td>
<td>連豐貿易有限公司</td>
<td>貿易業</td>
<td>潮州系</td>
<td>潮州会館副会長</td>
<td>カンボチア通り</td>
</tr>
<tr>
<td>林光輝</td>
<td>副会長</td>
<td>亞洲地產有限公司</td>
<td>不動産業</td>
<td>潮州系</td>
<td>潮州会館副会長</td>
<td>カンボチア通り</td>
</tr>
<tr>
<td>葉 琪</td>
<td>常務委員</td>
<td>百匯集團有限公司</td>
<td>金融</td>
<td>潮州系</td>
<td>潮州会館副会長</td>
<td>カンボチア通り</td>
</tr>
<tr>
<td>李捷貴</td>
<td>副会長</td>
<td>時珍中藥行</td>
<td>薬局</td>
<td>潮州系</td>
<td>潮州会館副会長</td>
<td>毛沢東通り</td>
</tr>
<tr>
<td>黃宋清</td>
<td>理事</td>
<td>信隆汽機零件行</td>
<td>自動車部品販売業</td>
<td>潮州系</td>
<td>潮州会館副会長</td>
<td>カンボチア通り</td>
</tr>
<tr>
<td>吳興利</td>
<td>副会長</td>
<td>準利市場</td>
<td>小売商</td>
<td>潮州系</td>
<td>潮州会館理事</td>
<td>カンボチア通り</td>
</tr>
<tr>
<td>林應祥</td>
<td>理事</td>
<td>林應祥貿易公司</td>
<td>貿易業</td>
<td>潮州系</td>
<td>潮州会館副会長</td>
<td>カンボチア通り</td>
</tr>
<tr>
<td>吳朝文</td>
<td>常務委員</td>
<td>培文學校校主</td>
<td>学校教育</td>
<td>潮州系</td>
<td>潮州会館理事</td>
<td>カンボチア通り</td>
</tr>
<tr>
<td>陳平川</td>
<td>副会長</td>
<td>金興貿易有限公司</td>
<td>貿易業</td>
<td>潮州系</td>
<td>潮州会館理事</td>
<td>カンボチア通り</td>
</tr>
<tr>
<td>郭漢標</td>
<td>副会長</td>
<td>大興貿易有限公司</td>
<td>貿易業</td>
<td>潮州系</td>
<td>潮州会館理事</td>
<td>カンボチア通り</td>
</tr>
<tr>
<td>洪炎才</td>
<td>理事</td>
<td>財旺兌換銀洋行</td>
<td>金融</td>
<td>潮州系</td>
<td>潮州会館副会長</td>
<td>カンボチア通り</td>
</tr>
<tr>
<td>蘇紀森</td>
<td>副会長</td>
<td>成豐縫紉印花廠</td>
<td>手芸業</td>
<td>福建系</td>
<td>福建会館副会長</td>
<td>カンボチア通り</td>
</tr>
<tr>
<td>黃德明</td>
<td>副会長</td>
<td>吳哥木材加工廠</td>
<td>木材加工業</td>
<td>潮州系</td>
<td>潮州会館副会長</td>
<td>カンボチア通り</td>
</tr>
<tr>
<td>陳國章</td>
<td>副会長</td>
<td>國泰大酒店</td>
<td>ホテル業</td>
<td>潮州系</td>
<td>潮州会館顧問</td>
<td>カンボチア通り</td>
</tr>
<tr>
<td>吳金榮</td>
<td>理事</td>
<td>仙女餅家</td>
<td>食品加工業</td>
<td>潮州系</td>
<td>潮州会館顧問</td>
<td>カンボチア通り</td>
</tr>
<tr>
<td>柯維瀚</td>
<td>理事</td>
<td>宝石電器修理行</td>
<td>電気修理業</td>
<td>福建系</td>
<td>福建会館理事</td>
<td>カンボチア通り</td>
</tr>
<tr>
<td>蔡崇華</td>
<td>理事</td>
<td>金東地產公司</td>
<td>不動産業</td>
<td>潮州系</td>
<td>潮州会館顧問</td>
<td>カンボチア通り</td>
</tr>
<tr>
<td>李冠雄</td>
<td>副会長</td>
<td>總統食品有限公司</td>
<td>食品加工業</td>
<td>潮州系</td>
<td>潮州会館顧問</td>
<td>カンボチア通り</td>
</tr>
<tr>
<td>張自強</td>
<td>副会長</td>
<td>可陸地產革業貿易公司</td>
<td>不動産・貿易業</td>
<td>潮州系</td>
<td>潮州会館副会長</td>
<td>カンボチア通り</td>
</tr>
<tr>
<td>何宗添</td>
<td>理事</td>
<td>奥林匹克印刷社</td>
<td>印刷業</td>
<td>海南系</td>
<td>海南同鄉會副会長</td>
<td>カンボチア通り</td>
</tr>
<tr>
<td>林耀欽</td>
<td>理事</td>
<td>合成印刷廠</td>
<td>印刷業</td>
<td>潮州系</td>
<td>潮州会館理事</td>
<td>カンボチア通り</td>
</tr>
<tr>
<td>陳海源</td>
<td>理事</td>
<td>紐約大酒樓</td>
<td>ホテル業</td>
<td>潮州系</td>
<td>潮州会館理事</td>
<td>カンボチア通り</td>
</tr>
<tr>
<td>黃烈城</td>
<td>理事</td>
<td>志成不銹鋼水塔行</td>
<td>金属工業</td>
<td>潮州系</td>
<td>潮州会館理事</td>
<td>カンボチア通り</td>
</tr>
<tr>
<td>周慶勇</td>
<td>理事</td>
<td>周大光福寿行</td>
<td>手芸業</td>
<td>潮州系</td>
<td>潮州会館理事</td>
<td>カンボチア通り</td>
</tr>
<tr>
<td>郭如興</td>
<td>理事</td>
<td>聯友學校校長</td>
<td>学校教育</td>
<td>潮州系</td>
<td>潮州会館理事</td>
<td>カンボチア通り</td>
</tr>
<tr>
<td>李安弟</td>
<td>常務委員</td>
<td>安達達出口有限公司</td>
<td>貿易業</td>
<td>潮州系</td>
<td>潮州会館副会長</td>
<td>カンボチア通り</td>
</tr>
<tr>
<td>郭宗華</td>
<td>理事</td>
<td>福建會館理事</td>
<td>備考</td>
<td>潮州系</td>
<td>福建會館秘書長</td>
<td>カンボチア通り</td>
</tr>
</tbody>
</table>

（出所）華商日報社（2002），東埔寨華人理事總會（2004），野澤（2004）を参考に筆者作成。

（注）（1）広肇會館（第4期理事，2002年4月26日当選，任期3年）、客屬会館（第3期理事，2001年7月当選，任期3年）、福建会館（第3期理事，2001年2月当選，任期3年）、潮州会館（第3期理事，2000年10月当選，任期3年）、海南同鄉会（第5期理事，1998年10月5日当選，2001年10月7日退任，任期3年）
（2）蔡義華が友人との共同出資で経営する国際書局本店は同通りに位置する。

（①）副会長は、「部長」を指し、ここでは、カンボジア華人理事総会内に設置されている各部門の役職をいう。
げ、一躍同国の著名な商業界大物となった。許鉄鈴は、わずか4カ月間で縫製工場である住安国際成衣有限公司（工場敷地面積は1万平方メートル余り、従業員330名余りを擁する）を設立しているほかに、前出の柳州銀行（メコンバンク）や5つ星ホテル、そして市内でも有名なオリンピック中央市場を経営しており、泰文隆集団の中にヘリコプター数機と車両数百台からなる輸送チームも有している [国際潮団関係年会専門委員会]

コンボニア経済の復興と発展にともなって、今日同国の華人経済は、ドメスティック志向からグローバル志向への発展を遂げつつある。既述のようにプロンコン内の従業員は、華人実業家が経営管理する5つ星ホテルや華人资本により設立された商業銀行（朱華銀行など）が出現しているが、その経営戦略は、華人が経済のグローバル化を視野に入れたものとなっており（注5、9参照）。これは同国の華人経済が、ドメスティック志向から脱却してグローバル志向へと転換しつつあることを示している。ただし総体的にみるならば、同国の華人の経済活動は、依然としてその絶対多数が経営基盤の脆弱な中小企業レベルの状態にあるのが実情である [楊××; 国務院僑辦僑務幹部学校 77級]。表2は、同国の最高華人協団であるコンボニア華人理事総会（2003年9月、創設40周年）第3期理事名簿（2004年3月改選、任期4年）であるが、ここから理事の全員が事業経営（または管理）に携わっていることがみてとれよう。各々の企業の事業規模は推察できないものの、各々の業種から従事分野といった華人の経済活動の実態についてある程度判断出来よう。

詳しくは

華人集住区域における商業分布

1. セントラルマーケット（中央市場）周辺

セントラルマーケットを四方に囲んだ周辺の通り沿いには、貴金属販売業、家電販売業、機械販売・修理業など中国語表記の看板を掲示した華人系店舗が数多く建ち並ぶ。同区域の景観としては、貴金属販売店が多数ある他に、パソコン周辺機器・プリンタ・コピー機・カラーテレビなどの電化製品を扱う家電販売店が集中しており、ディーゼルエンジン・発電機・トラクター類を扱う機械販売・修理業（注3）も若干見受けられる。筆者が訪れたある貴金属販売店の第二後宮の華人女性経営者は、普通話（現代中国語の標準語）をほとんど解さなかった（注4）。一方でマーケット内中央付近で軒を連ねるカウンター式店舗（もと貴金属・時計・服飾品類を販売）に勤める若い華人系女性店員は、華人学校で体系的教育を受けた世世代代で、流暢な普通話を操っていた。また筆者の聞き取りでは、彼女らの出身は大半が広東・潮州系だった。

セントラルマーケット周辺での事業経営者の
大部分は僑生華人であり、製金属販売業や家電販売業に業種が集中している性格上、同区域に集住する僑生華人は商人が多く、区域全体が問屋街の様相を呈している。また柬埔華人商会（PropTypes）や粵東華人港澳僑商總會（PropTypes）をみる限り、同区域ではカンボジア中国商会あるいはカンボジア中国港澳僑商總會に加入する新客華僑系会員企業（PropTypes）は1社も存在しないことから、同区域では、僑生華人と新客華僑の混住はないものと考える。

2．シャルルドゴール通り（戴高樂大道）

モニポン通りとの交差点から南西に約1キロメートルあまりにわたる通りの両側には、中国語表記の看板を掲示した華人系店舗（PropTypes）が軒を連ねる。華人商業区域である同通りの景観は、東南アジアのチャイナタウンでよくみられるショップハウス（中国語で「店舗」）、レンガ造り棟割り長屋形式の店舗兼用住宅）となっており、1階が店舗、2階以上が住居となっている。ただし店舗は、東南アジアのチャイナタウンでよくみられる強い日差しやスコール避けのための五脚基（雁木状、中国語で「騎楼」）はなってない。また同通りでは、日本の横浜や神戸などをはじめ、世界各地の多くのチャイナタウンでみられるような観光地化のシンボルである楼門（中国語で「牌楼」）は存在せず、これは同区域が観光地化されていないことを示している。同通りに分布する業種は、ガラス製造業（窯枠・サッシ製造を含む）、看板製作業、家具製造業、機械販売・修理業（発電機・ディーゼルエンジン・トラクター類）、時計販売業、寝具販売業、カーテン生地販売業、ビニールゴムシート販売業、両替業、歯科医院、薬局、酒屋、青果店、パン屋、喫茶・軽食店などの営業が営まれる。なかでも店舗数の多いから目立つのは、製造・販売部門一体化のガラス製造業と看板製作業、そして修理・販売部門一体化のオートバイ部品販売業（PropTypes）であり、これらの業種の大半は家内手業として経営されている。表3は、ブノンペン市内で華人が經營するガラス製造業の店舗リスト（商号から経営者が中国系と判断できるものが少なくない）であるが、計86店うち46店がシャルルドゴール通りに集中していることがわかる（全体の約5パーセント）。カンボジア華人理事総会・潮州会館会長の楊啓秋（PropTypes）によると、同通りでガラス製造業を経営する華人の大半が潮州系であり、原材料は中国、インドネシア、タイなどから輸入しているとのことである。

同通りでの事業経営者の大部分は僑生華人であるが、一方でカンボジア中国商会に加入する新客華僑系会員企業も1社存在することから（表4参照）、完全なる僑生華人集中区域とはいえず、僑生華人と新客華僑が混住する区域を形成しているとみなすべきであろう。またガラス製造業と看板製作業、オートバイ部品販売業に業種が集中している性格上、同通りに集住する
表3 華人が経営するガラス製造業（窯枠・サッシ製造を含む）店舗リスト

<table>
<thead>
<tr>
<th>会社名称</th>
<th>所在地</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>方新彪玻璃鏡行</td>
<td>金辺市シャルルドゴール通りⅡ号</td>
</tr>
<tr>
<td>勇新玻璃鏡行</td>
<td>金辺市シャルルドゴール通りⅡ号</td>
</tr>
<tr>
<td>勝利玻璃店</td>
<td>金辺市シャルルドゴール通りⅡ号</td>
</tr>
<tr>
<td>明強玻璃鏡行</td>
<td>金辺市シャルルドゴール通りⅡ号</td>
</tr>
<tr>
<td>創新出入口貿易有限公司（批発玻璃鏡子）</td>
<td>金辺市シャルルドゴール通りⅡ号</td>
</tr>
<tr>
<td>新昌承造鈑材玻璃鏡器工程</td>
<td>金辺市シャルルドゴール通りⅡ号</td>
</tr>
<tr>
<td>金和威</td>
<td>金辺市シャルルドゴール通りⅡ号</td>
</tr>
<tr>
<td>順興鏡行</td>
<td>金辺市シャルルドゴール通りⅡ号</td>
</tr>
<tr>
<td>羅勝源專营及鈑材</td>
<td>金辺市シャルルドゴール通りⅡ号</td>
</tr>
<tr>
<td>李青玻璃及鈑材行</td>
<td>金辺市シャルルドゴール通りⅡ号</td>
</tr>
<tr>
<td>李青玻璃及鈑材行鈑分行</td>
<td>金辺市ノロドム通りⅡ号</td>
</tr>
<tr>
<td>唐哥玻璃行</td>
<td>金辺市シャルルドゴール通りⅡ号</td>
</tr>
<tr>
<td>盛發鈑合金玻璃窓門框</td>
<td>金辺市シャルルドゴール通りⅡ号</td>
</tr>
<tr>
<td>福文承接各式玻璃及鈑材門窓，鈑框行</td>
<td>金辺市シャルルドゴール通りⅡ号</td>
</tr>
<tr>
<td>鄭建新玻璃鏡行</td>
<td>金辺市シャルルドゴール通りⅡ号</td>
</tr>
<tr>
<td>鄭明華玻璃店</td>
<td>金辺市シャルルドゴール通りⅡ号</td>
</tr>
<tr>
<td>洪熙鏡行</td>
<td>金辺市シャルルドゴール通りⅡ号</td>
</tr>
<tr>
<td>羅勝興專營玻璃及鋁材</td>
<td>金辺市シャルルドゴール通りⅡ号</td>
</tr>
<tr>
<td>江文費玻璃鏡行</td>
<td>金辺市シャルルドゴール通りⅡ号</td>
</tr>
<tr>
<td>順利玻璃行</td>
<td>金辺市シャルルドゴール通りⅡ号</td>
</tr>
<tr>
<td>何鏡新玻璃鏡行</td>
<td>金辺市シャルルドゴール通りⅡ号</td>
</tr>
<tr>
<td>光照玻璃行</td>
<td>金辺市シャルルドゴール通りⅡ号</td>
</tr>
<tr>
<td>黃成興玻璃器行</td>
<td>金辺市シャルルドゴール通りⅡ号</td>
</tr>
<tr>
<td>成泰鈑製行</td>
<td>金辺市シャルルドゴール通りⅡ号</td>
</tr>
<tr>
<td>宋財鈑材及玻璃行</td>
<td>金辺市シャルルドゴール通りⅡ号</td>
</tr>
<tr>
<td>劉炳秀</td>
<td>金辺市シャルルドゴール通りⅡ号</td>
</tr>
<tr>
<td>蔡明喜鈑行</td>
<td>金辺市シャルルドゴール通りⅡ号</td>
</tr>
<tr>
<td>金威</td>
<td>金辺市シャルルドゴール通りⅡ号</td>
</tr>
<tr>
<td>利来</td>
<td>金辺市シャルルドゴール通りⅡ号</td>
</tr>
<tr>
<td>興和鈑窓玻璃行</td>
<td>金辺市カンプチア通りⅡ号</td>
</tr>
<tr>
<td>鸿源玻璃行</td>
<td>金辺市カンプチア通りⅡ号</td>
</tr>
<tr>
<td>新金辺玻璃行</td>
<td>金辺市カンプチア通りⅡ号</td>
</tr>
<tr>
<td>金屬之光玻璃鈑材</td>
<td>金辺市毛沢東通りⅡ号</td>
</tr>
<tr>
<td>林聯建築裝飾承造玻璃鋁枽窓門</td>
<td>金辺市毛沢東通りⅡ号</td>
</tr>
<tr>
<td>林源昌承造玻璃鋁枽窓門行</td>
<td>金辺市モニレス通りⅡ号</td>
</tr>
<tr>
<td>鄭安祥玻璃店</td>
<td>金辺市モニレス通りⅡ号</td>
</tr>
<tr>
<td>松利鉄門窓及遮陽傘</td>
<td>金辺市Ⅲ路Ⅱ号</td>
</tr>
<tr>
<td>合成発</td>
<td>金辺市Ⅲ路Ⅱ号</td>
</tr>
</tbody>
</table>

（出所）華商日報社（yyyy）を参考に筆者作成。
<table>
<thead>
<tr>
<th>企業名称</th>
<th>代表</th>
<th>商会役職 △</th>
<th>業種</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>連合天助有限公司</td>
<td>張天助</td>
<td>第 3 期理事</td>
<td>不明</td>
</tr>
<tr>
<td>柬埔寨華榮出入境貿易有限公司</td>
<td>陳綏宜</td>
<td>第 3 期理事</td>
<td>貿易業</td>
</tr>
<tr>
<td>香港聯銀（柬埔寨）有限公司</td>
<td>梁日星・譚家鼎</td>
<td>不明</td>
<td>毛沢東通り</td>
</tr>
<tr>
<td>嘉一（柬埔寨）股份有限公司</td>
<td>郭峰</td>
<td>第 3 期理事</td>
<td>水道設備工事</td>
</tr>
<tr>
<td>聯興集団</td>
<td>彭夢傑</td>
<td>第 3 期副会長</td>
<td>不動産・建築・印刷業・ホテル・飲食業</td>
</tr>
<tr>
<td>聯興洗浄機械設備公司</td>
<td>譚家權</td>
<td>第 3 期理事</td>
<td>建築設備販売</td>
</tr>
<tr>
<td>老地方海鮮酒家</td>
<td>孫慶春</td>
<td>議業</td>
<td>飲食業</td>
</tr>
<tr>
<td>三林國際電器（柬埔寨）有限公司</td>
<td>胡金林</td>
<td>第 3 期理事</td>
<td>電器販売</td>
</tr>
<tr>
<td>永泰針車業</td>
<td>余永基</td>
<td>議業</td>
<td>飲食業</td>
</tr>
<tr>
<td>貴賓保安公司</td>
<td>劉耀興</td>
<td>議業</td>
<td>飲食業</td>
</tr>
<tr>
<td>(捷運旅游集団有限公司 )皇朝金边大酒店</td>
<td>高華</td>
<td>第 4 期理事</td>
<td>航空運輸代理・ホテル旅行業</td>
</tr>
<tr>
<td>中國機械（集團）總公司柬埔寨辦事處</td>
<td>王月明</td>
<td>第 4 期理事</td>
<td>プロジェクト関連国際工事請負</td>
</tr>
<tr>
<td>三湘集團金边有限公司</td>
<td>李洪明</td>
<td>第 4 期理事</td>
<td>不動産・貿易・飲食業</td>
</tr>
<tr>
<td>三林國際電器（柬埔寨）有限公司</td>
<td>胡金林</td>
<td>第 4 期理事</td>
<td>電器販売</td>
</tr>
<tr>
<td>金江進出口貿易發展有限公司</td>
<td>彭紅生</td>
<td>第 3 期理事</td>
<td>飲食業・貿易</td>
</tr>
<tr>
<td>東明印務有限公司</td>
<td>周偉明</td>
<td>議業</td>
<td>印刷・広告</td>
</tr>
<tr>
<td>柬埔寨新紀元集團有限公司</td>
<td>王曉琴</td>
<td>議業</td>
<td>凍水装置製作販売</td>
</tr>
<tr>
<td>全民醫院</td>
<td>李從新</td>
<td>議業</td>
<td>医療</td>
</tr>
<tr>
<td>萊龍公司</td>
<td>楊春</td>
<td>議業</td>
<td>医療</td>
</tr>
<tr>
<td>鳳凰足療健康中心</td>
<td>王成義</td>
<td>議業</td>
<td>建築材料輸出入貿易</td>
</tr>
<tr>
<td>柬埔寨牙科診療所</td>
<td>常王朝</td>
<td>議業</td>
<td>建築材料販売</td>
</tr>
<tr>
<td>柬埔寨金龍旅游工芸記念品飾品開発公司</td>
<td>陈維東</td>
<td>議業</td>
<td>園芸工芸記念品製作・販売</td>
</tr>
<tr>
<td>中東石材廠</td>
<td>徐秀忠・葉伯超</td>
<td>議業</td>
<td>各種大理石・花崗石板取扱（塗装・加工・切削・研磨・設置一貫サービス）</td>
</tr>
</tbody>
</table>

（出所）柬埔寨中国港澳僑商總會（dział；dział）および華商日報社（dział），柬埔寨中国商会（dział；dział）を参考に筆者作成。
（注）dział：柬埔寨中国港澳僑商總會企業，dział：柬埔寨中国商会企業，dział：柬埔寨中国商会企業/柬埔寨中国港澳僑商總會企業企業。

柬埔寨中国港澳僑商總會第 3 期理事人員はdług年 3 月 ǒ日に選出（任期 2 年），柬埔寨中国商会第 3 期理事人員はług年 1 月 ǒ日に選出（任期 2 年），第 3 期理事人員はług年 4 月 ǒ日に選出（任期 3 年）
現地報告

僑生華人は総体的に職人が多い。そのため通り
自体が職人街の様相を呈している。

3. カンプチア通り（干隆街）
モニボン通りとの交差点から西へ約1キロメ
ートルにわたる通りの両側には、中国語表記の
看板を掲示した華人系店舗が軒を連ねる。同通
りで店舗数の多くから特に目立つのは、自動車
部品販売業（オートバイ部品は含まず）と貿易公
司である。またモニボン通りとの交差付近には、
計7軒のパン屋（面包行）が集中している。こ
の他従業員の大半が華人である大型レストラン
も1軒ある。自動車部品販売業で扱われる部品
が輸入品かどうかは定かでないが、同通りには
日本製自動車タイヤの輸入を扱う貿易業者も存
在することから[東埔寮彫刻家籍総合会]、
輸入品の販売が行われている可能性はある。一
方でオートバイ品販売業については同通りで
は見受けられず、おそらくこれは前出のシャル
ルドゴール通りに集中しているためだと考えら
れる。この事実は僑生華人同士の商業活動にお
いて、区域によって特定業種ごとに棲み分けが
形成されているという可能性を示唆している。

街路別にみられる特定業種ごとの棲み分け（一
種の分業）が国内の華人ビジネスとして統合さ
れ、リンクージをもつものが否かについては、
カンボジアでは目下のところ特定業種ごとの同
業団体（業界組織）や中華総商會（同業団体の統
括的組織）が存在しないため、各々の華人ビジ
ネスを統合するような体系的なシステムが構築
されているとは考えにくい。しかしながらカン
ボジア華人理事総会では発足(1999年12月31日)
以来、華人企業または個人の商業関、近隣間、
家庭間の紛争に対して、同総会内に設置された
調停グループが積極的な処理や勧告を行い、和
解や訴訟取消へと導いていることから[東
埔寮華人理事総会・潮州会館会長の楊啓秋が経営する「新
綿美貿易有限公司」と「進裕報關運輸公司」（「報
聞」は通関のこと）、そしてカンボジア華人理事
総会機関紙であり、同氏が理事長を務める「東
華日報」本社も同通りに位置する。またカンボ
ジア華人理事総会理事・潮州会館常務理事の陳
平川が経営する「龍川汽車進口有限公司（“進
出口”は輸出のこと）も同通りに位置する。
同公司では主にトヨタ自動車の輸入を扱っている
[東埔寮彫刻家籍総合会]。華人商業区
域である同通りの景観は、シャルルドゴール通
りと同様にショップハウスとなっている。

同通りでの事業経営者の大部分は僑生華人で
あるが、カンボジア中国商会またはカンボジア
中国港澳僑商総会に加入する新客華僑系会員企業
も4社存在し、このなかには上記の社団役員
を務める新客華僑もいる（表4参照）。また自
動車部品販売業や輸出入貿易公司に業種が集中
している性格上、同通りに集住する僑生華人は

カンプチア通りにて筆者撮影（2000年8月）。写真は同
通りモニボン通りとの交差付近で営業しているパン
屋。お客はショーケースの中に並べられている物から
自分の食べたい物を選んで購入する。
商人が多く、一方でバン屋も集中することから、職人も集住している。このように通りでは、商人・職人系僑生華人の両者が集住するのと同時に、僑生華人と新客華僑が混住する区域を形成している。

4. 鳥瞰通り（蘇克仏阿街）

同通りはセントラルマーケット西側に位置し、路幅はシャルルドゴール通りやカンプチア通りのような繁華街とは対照的に狭い路地になっている。立地条件は良すぎてあり、2000年代におもに中国大陸から商機獲得のためにカンボジアへ移民して来た新客華僑の商業区域となっている。同通りで店舗数の多さで目立つのは、家族経営業の小規模な中国料理店である。中華料理店以外には、ネットカフェを併設した国際電話サービス業などの店舗もある。なお通りの南側（店舗面積）は、ガソリンスタンドの敷地や未整備区画となっており、店舗は存在しない。華商日報社（）では同通りについて、小規模な中華料理店が集中する区域であり、現地の中国語メディアからは中華美食街と称され、軒ほどの食堂が営業しているということ、餃子・麺類から炒め物等といった一品料理まで中国各地の料理が堪能でき、メニューの種類が豊富で価格も低廉であり、中国人に限らず日本人や韓国人観光客も足を運ぶ、と記されているが、一方で一部食堂では衛生条件の劣悪なものも見受けられる、と記されている。

同通りの名義はカンボジア中国商会に加入する新客華僑系会員企業は1社も存在しない[東埔寨中国商会  ～  ]（2000年10月時点で同商会に加入する会員企業は計1社である[野泽  ～  ]）。これにより、同商議上とのトラブルや合法的の権益の侵害、あるいは政府当局の司法権発動といった他国問題に遭遇した際には、社会による調停といった積極的な援助が得られないことを意味しており、同区域の新客華僑が極めて不安定なビジネス環境下に置かれていることを示している[注1]。同時にこれは、彼らが現地有効僑生華人との絆を構築しておらず、政治的後ろ盾（次節で詳述）を何ら有さないことも意味している。ちなみにカンボジア中国港湾華僑協会に加入する新客華僑系会員企業も1社も存在しない[東埔寨中国港湾華僑協会  ～  ]（2000年10月時点で同商会に加入する会員企業は計1社である[野澤  ～  ]）。同通りの事業経営者のはほとんどは新客華僑であり、東埔寨潮州会館（  ～  ）や東埔寨華僑理事總会（  ～  ）の理事名簿（就業場所や住居）から判断する限り、僑生華人の存在が確認されないことから、中国語表記の看板を掲示していない6店舗についてはクレーム系と推察される。したがって同通りでは、僑生華人と新客華僑の混住はないと考えられる。これは元来僑生華人の商業区域になっていなかった同通りに、2000年代に中国大陸から商機獲得のためにカンボジアへ移民し
て来た新客華僑が次第に住定するようになったものと推察される。

5．モニボン通り（莫尼旺大道）
同通りは、市内でも交通量の多い繁華街であり、僑生華人と新客華僑系の店舗が共存して商業活動を展開しているが（表2，4参照）、前出4つの区域とは異なり、西欧系店舗も少なくないため、随所で近代的な酒店が見受けられ、シャルルドゴール通りやカンブチア通りのように明瞭なショップハウスにはなっていない。僑生華人は主にホテル、レストラン、大型スーパー、書籍・文房具店、旅行業、両替業、娯楽施設などを、新客華僑は主にホテル、レストラン、旅行業、国際電話サービス業を経営する。平野（）は、ホテルや旅行会社が集まる市内随一の繁華街。モニボン通りは元来華僑・華人が多く住む商業区域だけに、大陸、台湾、香港資本のホテル、レストラン、銀行なども出現している。同通りで事業経営する新客華僑は、通りのケースとは異なり、カンボジア中国商會またはカンボジア中国港澳僑商總会に加入する新客華僑系会員企業が9社存在し、同時に同商

同通りで事務所を構える有力者が数名いる（表4参照）。たとえば、同商会会長の高華が旅行業の「捷運旅遊集団有限公司」以外に経営するホテル（皇朝大酒店）やバイセの新華生が経営するレストラン（新華生）は、ともに同通りに位置する。さらに、カンボジア華僑理総会・潮州会館副会長の杜瑞通が経営する「萬里旅遊」や広肇会館会長の蔡迪華が友人の共同出資（「合設」）で経営する「國際書局」本店も同通りに位置するなど、同通りで事業経営する僑生華人会社も少なくな（表2参照）。また潮州会館（）には、会館理事が経営するホテルやレストラン、旅行社などの企業広告が数多く掲載されているが、特に同通りに位置するものが多い。このように同通りでは、クメール系に限らず他のエスニック・グループをも包括した僑生華人と新客華僑が混住する区域を形成しているのが特徴である。

カンボジア華僑社会における僑生華人と新客華僑の共生関係について

前節では、シャルルドゴール、カンブチア、モニボン各通りにおいて、僑生華人と新客華僑による混住区域が形成されていることが明らかになった。また今回の現地調査では対象区域には含まれていなかったが、現地刊行一次資料から、毛沢東通りでも当該各通りと同様に僑生華人と新客華僑が混住していることが明らかになった（表2，4参照）。

市内中心地でもあり従来から僑生華人商業区域でもあった当該各通りにおいて新客華僑のビジネス参入がみられる背景には、彼ら新客華僑
がカンボジア中国商協会やカンボジア中国中国香港関係総会などの新客華僑団役員に在籍しているか、あるいは新客華僑関係企業が当該団体に会員として入社していること、そして公生の団体活動を通じて活発な経済交流、すなわち公生関係を構築していることが挙げられる。実際、当該各団体において事業経営者の熱気ある団体の中には、カンボジア華僑団役員会や同団体会館といった華僑団役員を務める有力者が少なくない（表2参照）。カンボジア華僑団体に於ける華僑団と新客華僑の堅固な公生関係の構築を表している典型的な事象としては、カンボジア中国和平統一促進会という複合的組織の存在が挙げられる。同促進会は、2001年4月20日にプノンペンで正式に結成された。カンボジア華僑団役員会、カンボジア中国商協会、カンボジア中国香港関係総会が共同で発起し、同団体社会各方の一国二制度および中国和平統一に賛同する人々の共同参画により成立している。宗目としては、「国内の華僑団を総合させ、中国・台湾国民も世界各地の華僑団および団体組織との交流関係を増進発展させることで、一日も早い中国和平統一の実現を推進すること」となっている。そして同促進会では、この宗旨に立脚して政治・経済・文化・学術・科学技術・情報・貿易・スポーツ・観光など多方面において世界各国の華僑団や団体組織との密接な連携を強化すると同時に、国内華僑団の経済や文化の発展を促進すること、としている[中国和平統一促進会編(2004)]。このようにカンボジア中国和平統一促進会は、華僑団社団の最高指導機関であるカンボジア華僑団役員会と新客華僑社団であるカンボジア中国商協会、カンボジア中国香港関係総会が一体として発足させた複合的組織であり、ここから同国華僑団体において華僑団と新客華僑が団体組織を媒介として共生関係を構築していることが見出せる。団体組織を媒介とした華僑団と新客華僑の共生関係の構築を具現しているその事例としては、カンボジア中国香港関係総会（カンボジア華僑団）理事役員会による広報会館（華僑団役員会）理事役員職への就任（逆もあり）、ニュース同役員あるいは会員企業による広報学校の施設拡充に対する資金援助や就学助成金の交付、カンボジア華僑団役員会が2000年7月にカンボジア華僑団文化教育基金設立を設谛した際、カンボジア中国商協会とカンボジア中国香港関係総会が合計100米ドルずつ、さらに各団体役員会が同基金に100米ドルずつ、各団体副会長や理事の一部も100〜200米ドルずつ寄付、2000年10月にカンボジア中国商協会が現地引受団体として「中国四川省・湖北省商品展示販売会」をプノンペンで開催した際、カンボジア華僑団役員会が後援団体として支援、などが挙げられる。また団体活動の延長線上における両者の共生関係を具現している事例としては、カンボジア華僑団役員会長・楊啓秋とカンボジア中国商会・高華とのビジネス提携、有力華僑団との織物工場の合弁経営または外資織物工場の有力華僑団によるマネジメント管理（業務提携）、などが挙げられる[野澤(2005);(2006)]。当該各団体での華僑団と新客華僑の混住による商業活動上のシナジー効果の有無については定かではない。しかし仮説したように、カンボジア中国和平統一促進会が団体活動を通じて海外華僑団体との連携強化だけでなく、国内外華僑団の経済や文化の発展も促進していること、そして団体活動の延長線上における両者
図5 カンボジア国家機関図

大臣会議名簿（2020年9月現在）

大臣会議

国王

上院

国民議会

大臣会議

上級国務大臣

大臣官房会議

カンボジア開発評議会

総理大臣

外務・国際協力省

内務・国家保険省

経済・財務省

情報省

公共事業・運輸省

農林水産省

司 法 部

商 業 省

鉱工業・エネルギー省

計 計 部

商業省大臣

教育・青少年・スポーツ大臣

（出席）天川（C）
の共生関係の構築が認められること（ビジネス提携あるいは業務提携など），といった事例から、同一区域における両者の混在が社団組織を媒介として商業活動上のシナジー効果を一定程度生み出しているものと推察される。カンボジアは現在も依然として人治国家であり、ビジネス拡張には許可手続きを政府高官との関係構築が不可欠となる。カンボジアでは、副総理大臣、国務大臣、経済・財務相、情報相、公共事業・運輸相、国会上院議長（カンボジア国家機構図は図5を参照）などが内閣閣僚の過半数や政府行政機関の数多くの高官が華人であり、彼らのなかには血縁・地縁関係を媒介として僑生華人社会団や有力僑生華人と堅固な関係を構築している者が少なくない。またこれは、華人団体のような政府高官と堅固な関係を構築している有力僑生華人が存在することも意味する（野澤 2019, 2020). したがって、新客華僑がこのような政治的後盾をもつ有力僑生華人と堅固な紐帯を構築することは、同国でのビジネス展開を保証されたのに等しいといっても過言ではないだろう。また僑生華人にとっても、新客華僑との関係構築は、合弁提携など自己のビジネス拡張の好機にもなりうる。シャルルドゴール、カンブチア、モニポン各通りで新客華僑のビジネス展開を可能にさせている要因は、彼らが社団組織を媒介として政治的後盾をもつ僑生華人と堅固な共生関係を構築しているからであり、そのような意味では現地有力僑生華人との関係をもたない 通りの新客華僑は鮮明なコントラストをなしているといえよう。
経済促進の過程で、僑生華人および新客華人に、特に経済活動が活発な地域を拡大しており、これにより両者における競合関係が存在する可能性も考えられるとはが、総体的に同国での華人経済基盤がまだ脆弱な状態（依然として絶対多数の中小企業レベル）にあることや法的観念が薄い人治国家であるという所見を考えれば、筆者は両者が共生関係にあるものと考える。
一方で、セントラルマーケット周辺では僑生華人集住区域が、線形的に同国語を通じて新客華人集住区域が形成されていることも明らかになった。山下（ものの）米国のサンフランシスコやロサンゼルス、そしてニューヨークといった大都市の華人社会を事例にして、これらの都市で僑生華人はオールドチャイナタウンに集住するが、新客華人は新移民の流入にともない形成された郊外型ニューチャイナタウン（「新華埠」）に集住する傾向にあり、明確な差異付け現象がみられる。しかし、この同国語を通じた場合、決して米国でみられる郊外型ニューチャイナタウンのような特性を有していない。繰り返しになるが、元来僑生華人の商業区域になっていなかった同周辺において、このように同国語を中国語表記すると「蘇州仏教」であるが、この日本の旅行者でも同通りの通訳がいないので、本稿では英語表記とした。さらには同通りを中国語表記すると「蘇州仏教」であるが、参考までにビンズ（中国語版発音記号）を付記する。」

（注1）同通りは、日本の4カ所がメジャーな通りや区域であるのと対照的に、区画整備がまだ十分でないマイナーな区域となっているのが実情である。したがって日本の旅行者でも同通りの通訳がいないので、本稿では英語表記とした。

（注2）現在の第一世代（老華僑）がコンポジアに渡来した具体的時期を知るための手がかりとして、新（浩浩）は、中国人のコンポジア移住ブームが1950年代と1960年代の後半、および第1次世界大戦後初期の3回にわたって出現したこと、そして特に第1次世界大戦後の1935年から1942年までの間に、華僑人口が10万人から30万人にまで激増し、当時のコンポジアにおける総人口（100万人）の約1パーセントを占めた、と述べている。

（注3）広東系とは、広州周辺地域の旧広州府および旧肇慶府出身者を指す。俗にいう広東系を狭義に
解釈すれば、旧両府出身者だけを指すが、移住規模によってさらに三邑人（南海・番禺・順徳の各県）、四邑人（台山・開平・恩平・新会）などに細分化され、これに中山・東莞・増城・鶴山・高要・高明を加えた計20県が広州周辺にある。四邑と鶴山県出身者を合わせて五邑ともいう [可児・斯波・源 1797]、福建系とは廈門を中心とした同南地方、及び福清・福州の同北地方を総括している [野澤 野澤 野澤 野澤 野澤 野澤 野澤 野澤 野澤 野澤]。また、潮州系・広東系・客家系・海南系・福建系のことをまとめて五大系と呼ぶが、これは、世界各国の華人社会に散在するもっとも代表的な5つの同系地縁による連帯組織である [野澤 野澤 野澤 野澤 野澤 野澤]。

（注4）1950年にカンボジアでは「カンボジア共和国」が制定された。これ以降、中国系移民の管理はいっそう厳しいものになったとされる。例えば全国規模で中国系移民の登録制度が実施され、4代前まで家系を遡り、中国人出身の無縁を定義したとされる。そしてこれに対して、多くの中国系移民が管理対象となることを畏怖し、クメール人としてのアイデンティティを強化する。例えばクメール人の出生を得るために親族を行ったりする者や、クメール人と結婚したりする者が増えたとされる [佐々木 佐々木 佐々木 佐々木 佐々木]

（注5）加華銀行とは、カナダ在住の元カンボジア華人（本稿で使用する元カンボジア華人）の定義は、海外に在住するカンボジア出身華人であることとしており、現地国籍取得の有無については不明としている。また当該人物のカナダ国籍取得の有無については不明とカンボジア国家銀行の合井により設立された商業銀行で、中国、米国、香港、シンガポール、台湾、カナダ、タイなどの銀行と業務代理契約を締結している [加華銀行 1998]。同銀行は、1998年に商業銀行として登録された。カンボジア在住の華人が就任している。1997年12月時点で、本店以外に、プノンペン市内に2支店（シャルルドゴール、オリンピック各支店）、シハヌークヴィル、パリエン、パチタンバン、シアムリプ、コンポンチャーム、ボイエント、コンポルに各1支店の計9支店を有する [潮州会館 1998]。カンボジアで多数の支店を有する国内最大の私有銀行となっている [加華銀行 1998]。

（注6）潮州会館職員の名誉会長を務める許府勝が創立した銀行である [国際潮州会館 会館 会館 会館 会館 会館]。創立年月日は不明。プノンペンの官庁街であるディンディン通りに本店を置くほか、市内毛沢東通りに支店が1行、地方都市ではパッタンバン、シハヌークヴィル、シアムリプそしてタイとの国境都市であるボイエントに支店を置く [華商日報 1998]。実際に同銀行の総経理（総支配人）として経営管理を行っているのは、同氏の次男である [カンボジア 1998年8月 10日]、[日本貿易振興機構]（カンボジア事務所において行った筆者の許府勝の三男へのインタビュー）

（注7）安達銀行は1999年10月8日に開業し、2000年に12月時点で本店のみを有する小規模銀行である。同銀行の主要出資者は潮州会館職員就任を務める李安弟である [潮州会館 1998]。

（注8）同通りは、1957年に周恩来首相（当時）が中華友好的ために建設寄贈したものだが、その後の中国における事態や戦争で破壊されてしまった。そして政府が資金不足により修復不可能な状態に陥っていた際、許府勝は道路修復費用として3万万ドルを寄付している [国際潮州会館 1998]。

（注9）毛沢東通りにある5つ星ホテル「金覇五洲国際大飯店」の [カンボジア 1998年8月 10日] で、1997年にオープンした。同ホテルの創造者は前出の許府勝であるが、実際に総経理として経営管理を行っているのは、同氏の三男 [日本貿易振興機構]（カンボジア事務所において行った筆者の許府勝の三男へのインタビュー）
現地報告

（注 [1]）金の延べ板や金の指輪、ネックレスなど貴金属を扱う店舗のことを、中国語では金行という。東南アジアのチャイナタウンでは華人経営の貴金属販売店をよく見かける。東南アジアでは、かつての政治的教訓による自国通貨への不安から、金への依存度が依然として高い。

（注 [2]）中国語書板を掲げていないても、大半の店舗には中国語で書かれた対聯（対句を2枚に書き分け、入口・壁面・神棚などに左右に分けて貼った物で、ちょうど日本のご元旦に門前の左右に立って松を飾る習慣と似ている）を貼っている。

（注 [3]）この種の機械販売業は、大半が軒先での修理業を兼務する。

（注 [4]）中国語書板を掲げていないても、大半の店舗には中国語で書かれた対聯（対句を2枚に書き分け、入口・壁面・神棚などに左右に分けて貼った物で、ちょうど日本のご元旦に門前の左右に立って松を飾る習慣と似ている）を貼っている。

（注 [5]）中国政府系企業、民営企業、個人経営者などの駐カンボジア中国系企業あるいは企業代表部を指す [東埔寨中国商会  会]。

（注 [6]）中国語書板を掲げていないても、大半の店舗には中国語で書かれた対聯（対句を2枚に書き分け、入口・壁面・神棚などに左右に分けて貼った物で、ちょうど日本のご元旦に門前の左右に立って松を飾る習慣と似ている）を貼っている。

（注 [7]）オートバイ部品販売業も、大半が軒先での修理業を兼務する。

（注 [8]）2013年8月10日、カンボジア華人理事総会において行った筆者による総会会長楊啓秋へのインタビュー。

（注 [9]）新客華僑団業務のひとつである留居国府経済の外的要因により経営危機に直面した会員企業に対する調査を含んだ説明の詳細については、野澤（黒い）を参照して頂きたい。

（注 [10]）洲旅店、香港大酒店（潮州会館副会長が経営）、柏博士大酒店（1931年8月時点で既に閉鎖していた）、香港樓大酒家、大成酒店（潮州会館初代理事が経営）、亞洲大酒店など、

（注 [11]）既述したように、カンボジアの華人社会の場合、潮州系が華人全体（6万人）の8割（5万人）を占めるため、潮州語が同国華人社会の中でもっとも通用する言語になっている [野澤 2015]。

（注 [12]）僑僑華僑と新客華僑の社団組織を媒介として構築された共生関係、ならびに社団活動の延長線上における両者のビジネス提携については、野澤（黒い）で詳述している。

（注 [13]）カンボジアの僑僑華僑団は、1930年代に入れて次第に再構築されており、新客華僑団も1950年代後半になって次第に組織化され組織化されている（図3参照）。前者が宗親総会や同同総会というように統制的な華人団体を組織しているのに対照的に、後者は出身地や同姓に従わずに業績の社団を組織しており、両者における方向性の違いがみられる。

（注 [14]）ニューヨークの州外型ニューチャイナタウンでは、新客華僑の日常生活に必要な物やサービスがほとんど何でも揃っているとされる。食料品販売・飲食関係では、スーパーマーケット（「超級市場」）、果物、新鮮魚、肉、チーズ、ドーナツ、アイスクリーム店、レストランなど。その他商店としては、衣料品店、電器店、靴店、雑貨店、家具店、ペットショップ、花屋、貸ビデオ店、書店、文具店、写真店、ギフトショップ、自動車部品販売店など。各種サービス関係では、コインランドリー、語学学校、学習塾、幼稚園、自動車教習、不動産、銀行、理髪店、美容院など [山下 2013]。しかしニューヨークの州外型ニューチャイナタウンにおけることは、そのような生活機能のセンターとしての役割は果たしていない。これに対して新客華僑団ならびに新客華僑によって構築されているチャイナタウンでは、それぞれその役割が果たされている。
現地報告

ている。

文献リスト

＜日本語文献＞

天川直子 『カンボジアの在曆政府の在不在』アジア動向年報 第22号．アジア経済研究所

可児弘明・高井義信・小池伸新款の論文．『華僑・華人事業』弘文堂

佐々木淳『カンボジアのエスニック集団－中華系移民の歴史と現在－』駒井洋史東南アジア上

の研究．河部利夫編『東南アジア華僑社会の動向』アジア経済研究所

日本貿易振興会アジア経済研究所『アジア動向年報』

野澤知弘『華僑社会学ぶ－カンボジアの華僑社会－』地理 第27巻 第8号 (8月)

野澤知弘『カンボジアの華僑社会－僑生華人と新客華僑の共生問題－』アジア経済 第27巻 第8号 (8月)

野澤知弘『カンボジアの華僑社会－五大勢の従事－』山下清南編著『華僑社会を考える－中央アジアから世界へ～ネットワークの歴史・社会・文化』明石書店

野澤知弘『カンボジアの華僑社会－潮州会館と陳氏宗親会の華僑社会とグローバリゼーション－』華僑華僑研究所第2号 (10月)

野澤知弘『カンボジアの華僑社会－新客華僑社会動態に関する考察－』アジア経済 第27巻 第3号 (3月)

莫邦富 『新華僑・世界経済を席捲するチャイナ・ドラマ－』中公文庫

平野久美子 『カンボジアは誘う』新潮社

森川真規雄 『歷史的新第1章』米国・カナダ・可児弘明

游仲勤編『華僑華僑人のボーグレアの世紀へ』東方書店

山下清海 『東南アジアのチャイナタウン』古今書院

游仲勤 『華僑ネットワークする経済民族－中』講談社現当新書

＜中国語文献＞

傅厚・張芸 『中国の華僑華僑社会の過去と現在』八桂僑刊 第3期 (8月)

国務院僑務局幹部学校編著『第4部－演』李雀僑

廖小健 『演』李雀僑

野澤知弘『華僑社会の在表象』華僑華僑学会

張煒 『東南アジア華僑の歴史と現状』北京 九州出版社

＜中国語文献＞

蔡振裕 『演』李雀僑

杜瑞通（華僑華僑学会副会長兼文教部秘書長）

海外華僑投資公司編『演』海外華僑投資公司年報

華僑日報社編 『演』華僑日報社

華僑華僑日報社編 『演』華僑華僑日報社

華僑華僑日報社編 『演』華僑華僑日報社
Cambodia List of Members 2003-2005

The Garment Manufacturers Association in Cambodia: List of Members 2003-2005

GMAC Executive Committee, March 2003-March 2005

<インターネット>

国際連合聯合国 会議 総会専門委員会「立憲党」

広西状族自治区政府網「中国与越南会」

加賀銀行 中国「加賀銀行グループ」

四川新聞網「中国与越南会」

金边「中国与越南会」

(学校法人日本科学総合学院専任教員, 2006年1月 受付, 2006年9月6日レフェリーの審査を経て掲載決定)